

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
歯科衛生士及び歯科技工士の就業状況等に基づく安定供給方策に関する研究  
（H29-医療-一般-003）

## 歯科技工士の就業状況等に関する 調査研究結果の概要

参考人：日本歯科大学東京短期大学 大島 克郎

# 研究班の概要

厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業（2017-2018年度）

## 歯科衛生士及び歯科技工士の就業状況等に基づく安定供給方策に関する研究

### 1. 研究概要

歯科衛生士と歯科技工士の人材確保は、国民に質の高い歯科医療サービスを提供する観点から、常に安定供給に向けた対策を講じていくことが必要である。

本研究では、全国の歯科衛生士養成施設および歯科技工士養成施設のなかから、同窓会組織等の運営管理がされている施設を複数選定し、その卒業生を対象として、就学時の状況や免許取得後の就業状況等の実態を把握するための調査を行う。

併せて、衛生行政報告例や医療施設静態調査等の政府統計データを分析し、全国的な歯科衛生士・歯科技工士の就業状況や地域分布等を把握する。

これらの結果に基づき、各職種の安定供給を図るための方策を検討する。

### 2. 研究組織

研究代表者： 須田 英明（東京医科歯科大学 名誉教授）

研究分担者： 鈴木 哲也（東京医科歯科大学大学院 教授）

安藤 雄一（国立保健医療科学院 統括研究官）

三浦 宏子（国立保健医療科学院 部長）

大島 克郎（日本歯科大学東京短期大学 教授）

# 目的と方法

## 【目的】

本研究の目的は、歯科技工士養成施設の同窓会組織を対象として、就業状況や離職要因等を調査し、歯科技工士の安定供給方策を検討するための基礎資料を得ることである。

## 【方法】

- 事前調査を通じて、調査協力が得られた歯科技工士養成施設4校を対象とした。
- 対象施設が保有している卒業生の住所リストの中から卒後約30年までの者について、卒業年次ごとに均等に無作為に抽出された者を対象として、郵送法による自記式質問紙調査を行った。
- 回収された調査票のうち、有効回答を分析対象とした（表1）。なお、本研究は事前に日本歯科大学東京短期大学の倫理審査を受け、承認されたうえで実施した（東短倫-218）。

表1 調査票発送数と回収状況

	発送数	回収数	有効回答数	有効回答率
A校	1,600	240	239	14.9%
B校	464	185	185	39.9%
C校	1,600	320	319	19.9%
D校	95	35	35	36.8%

# 結果の概要 ①

- 回答者の属性の概要を示す。各調査対象施設において、歯科技工士として就業していない者からも回答が得られた。
- なお、いずれの施設においても回収率が低く、母集団（全卒業生）の正しい代表を表していない可能性があるため、数値の解釈には注意を要する（以下同）。

表2 回答者の属性の概要

	A校		B校		C校		D校		
	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	
総数	239	100.0	185	100.0	319	100.0	35	100.0	
年齢	20歳代	54	22.6	29	15.7	12	3.8	11	31.4
	30歳代	72	30.1	27	14.6	13	4.1	12	34.3
	40歳代	82	34.3	57	30.8	16	5.0	11	31.4
	50歳代以上	30	12.6	72	38.9	277	86.8	1	2.9
	無回答	1	0.4	0	0.0	1	0.3	0	0.0
歯科技工士免許を取得した年齢	25歳未満	211	88.3	150	81.1	299	93.7	31	88.6
	25～30歳未満	15	6.3	29	15.7	14	4.4	1	2.8
	30歳以上	11	4.6	6	3.2	6	1.9	3	8.6
	無回答	2	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
性別	男性	151	63.2	88	47.6	179	56.1	20	57.1
	女性	88	36.8	97	52.4	140	43.9	15	42.9
現在の歯科技工士としての就業状況	歯科技工士として就業している	147	61.5	117	63.2	181	56.7	29	82.9
	歯科技工士として就業していない	92	38.5	68	36.8	138	43.3	5	14.3
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.8

## 結果の概要 ②

- 現在，歯科技工士として就業していない者が，歯科技工士としての仕事を最後に辞めたときの年齢（離職年齢）を示す．
- いずれの施設においても，「20～25歳未満」「25～30歳未満」で離職したという回答が多数を占めていた．

表3 歯科技工士を離職した年齢

	A校		B校		C校		D校	
	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)
総数	92	100.0	68	100.0	138	100.0	5	100.0
20～25歳未満	47	51.1	16	23.5	76	55.1	4	80.0
25～30歳未満	26	28.2	23	33.8	32	23.2	1	20.0
30～35歳未満	8	8.7	10	14.7	16	11.6	0	0.0
35歳以上	10	10.9	10	14.7	6	4.3	0	0.0
無回答	1	1.1	9	13.3	8	5.8	0	0.0

色塗りは各施設における回答割合の順序(最大値:赤, 最小値:白)を示しており, 赤色が濃いほど高値になっている。

## 結果の概要 ③

- 現在、歯科技工士として就業していない者が、歯科技工士としての仕事を辞めた理由（離職理由）について得られた回答を示す。
- いずれの施設においても、「給与・待遇の面」「仕事内容への不安」が上位を占めており、次いで、「健康面」「人間関係」などの回答が多くみられた。

表4 歯科技工士を離職した理由

	A校		B校		C校		D校	
	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)
総数	92	100.0	68	100.0	138	100.0	5	100.0
仕事内容への不安	42	45.7	22	32.4	72	52.2	4	80.0
給与・待遇の面	53	57.6	28	41.2	80	58.0	3	60.0
人間関係	27	29.3	14	20.6	40	29.0	1	20.0
家庭等の事情	6	6.5	4	5.9	9	6.5	0	0.0
結婚	11	12.0	11	16.2	14	10.1	0	0.0
出産・育児	13	14.1	10	14.7	5	3.6	0	0.0
家族等の介護	1	1.1	2	2.9	1	0.7	0	0.0
健康面	32	34.8	16	23.5	42	30.4	0	0.0
歯科以外への興味	14	15.2	14	20.6	22	15.9	0	0.0
その他	23	25.0	18	26.5	39	28.3	1	20.0
無回答	1	1.1	4	5.9	4	2.9	0	0.0

色塗りは各施設における回答割合の順序(最大値:赤, 最小値:白)を示しており, 赤色が濃いほど高値になっている。

## 結果の概要 ④

- 現在、歯科技工士として就業していない者が、歯科技工士として再び働くことへの意欲（復職意欲）について得られた回答を示す。
- いずれの施設においても、「そのつもりはない」という回答が多数を占めていたが、一部、「少し意欲がある」という回答もみられた。

表5 復職への意欲

	A校		B校		C校		D校	
	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)
総数	92	100.0	68	100.0	138	100.0	5	100.0
とても意欲がある	4	4.3	2	2.9	4	2.9	0	0.0
少し意欲がある	23	25.0	17	25.0	34	24.6	1	20.0
そのつもりはない	64	69.6	46	67.6	97	70.3	4	80.0
無回答	1	1.1	3	4.4	3	2.2	0	0.0

色塗りは各施設における回答割合の順序(最大値:赤, 最小値:白)を示しており, 赤色が濃いほど高値になっている。

## 結果の概要 ⑤

- 現在，歯科技工士として就業していない者（非就業者）と就業している者（就業者）とに分け，性により層別したうえで，歯科技工士として働き始めたときの各調査項目の満足度等についてクロス集計した結果を示す。
- A校においては，女性の非就業者は就業者よりも，日々の業務に不満を感じている者の割合が有意に多かった。また，B校においては，男性の非就業者は就業者よりも，学会等への参加機会が少ないと感じている者の割合が有意に多かった。さらに，C校においては，男性の非就業者は就業者よりも，学会等への参加機会が少なく，勤務時間への不満を感じている者の割合が有意に多かった。

表6 歯科技工士免許取得直後の就業状況と各満足度等との関係

	A校				B校				C校																
	男性		女性		男性		女性		男性		女性														
	n	不満 (%)	満足 (%)	p値	n	不満 (%)	満足 (%)	p値	n	不満 (%)	満足 (%)	p値													
学会等への参加機会	非就業者	38	76.3	23.7	0.896	44	81.8	18.2	0.774	11	100.0	0.0	0.004	45	80.0	20.0	0.538	59	91.5	8.5	0.032	60	90.0	10.0	0.815
	就業者	106	77.4	22.6		38	84.2	15.8		77	54.5	45.5		39	74.4	25.6		107	78.5	21.5		71	88.7	11.3	
給与の状況	非就業者	39	84.6	15.4	0.644	45	75.6	24.4	0.252	11	72.7	27.3	0.454	46	56.5	43.5	0.286	63	85.7	14.3	0.509	62	75.8	24.2	0.877
	就業者	107	81.3	18.7		39	64.1	35.9		77	61.0	39.0		40	45.0	55.0		110	81.8	18.2		71	74.6	25.4	
勤務時間の状況	非就業者	39	82.1	17.9	0.726	45	86.7	13.3	0.052	11	72.7	27.3	0.289	46	60.9	39.1	0.311	63	93.7	6.3	0.030	63	84.1	16.4	0.330
	就業者	107	79.4	20.6		39	69.2	30.8		77	55.8	44.2		40	50.0	50.0		110	81.8	18.2		71	77.5	22.5	
日々の業務の状況	非就業者	39	82.1	17.9	0.081	45	77.8	22.2	0.037	11	63.6	36.4	0.226	46	58.7	41.3	0.134	63	85.7	14.3	0.103	62	80.6	19.4	0.314
	就業者	107	67.3	32.7		39	56.4	43.6		77	44.2	55.8		40	42.5	57.5		109	75.2	24.8		71	73.2	26.8	

色塗りは， $\chi^2$ 検定により危険率5%水準で有意差が認められた項目を示す。



# 【参考】同一出生世代の就業歯科技工士数の推移

- 歯科衛生士・歯科技工士の年齢階級別就業者数に関する公表値を用いて、同一出生世代の就業者数の推移を分析した。
- 歯科衛生士の就業状況においては、全国的に20歳代から30歳代にかけて就業者数が減少するものの40歳代になると増加傾向を示す、いわゆるM字カーブの形状が年々明瞭になっていたことが確認された。
- しかし、歯科技工士の就業状況においては、M字カーブは認められず、男女ともに年齢が進むにつれて「離職」が進んでいる状況が示唆された。

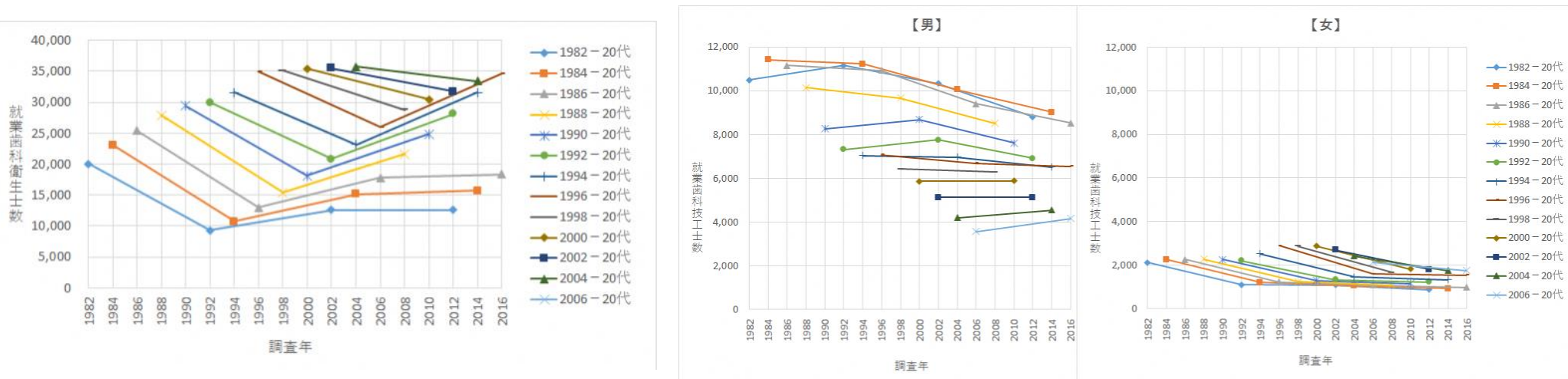


図1 同一出生世代別にみた就業歯科衛生士数（左）と就業歯科技工士数（右）の推移

【引用】安藤雄一，大島克郎，大内章嗣：同一出生世代別就業者数の推移からみた歯科衛生士と歯科技工士の復職状況，2017年度厚労科研報告書，47～59，2018。

## まとめ

- 本研究の限界として、調査票回収の困難性が挙げられる。歯科技工士の就業等に関して離職者も含めて実態把握を行う場合、同窓会組織等を対象とした郵送法調査は利便性・費用面から最も現実的な手法であるが、あまり高い回収率が望めず、その実態を正確に捉えていない可能性がある。
- 回答が得られた者のうち、現在、歯科技工士として就業していない者が離職した年齢は20歳代が多く、その理由として「給与・待遇の面」「仕事内容への不安」などが上位を占めていた。
- なお、衛生行政報告例の公表値を用いた分析から、歯科技工士の就業状況においては、M字カーブは認められず、男女ともに年齢が進むにつれて「離職」が進んでいる状況が示唆された。
- これらの結果を踏まえ、今後さらに歯科技工士の需要・供給の分析を進め、安定供給方策を検討していく必要がある。